

第7回品質改善委員会 東芝における安全・品質管理教育、生産性改善への取組みと工場見学



品質改善委員長の後藤所長自ら事例紹介をいただく

京浜事業所の概要

京浜事業所の本工場では、タービン発電機や制御装置、熱交換器、水車、水車発電機、原子炉機器、超伝導機器等を扱っている。

安全・品質管理教育への取組み

リスク低減には、マネジメントシステムを活用したルール遵守、人材の力量確保、リスク抽出と対策、意識改革による不安全・不適合撲滅の風土醸成、ヒューマンエラー防止、により安全・品質を確保。教育内容や手段は、はルール集の配布、役割毎に必要な力量を表した「力量マップ」と個人の力量のギャップを把握した上での技能訓

練、はコンプライアンス教育や、安全衛生ニュースやビデオ・安全体感教室等を活用した安全啓蒙活動、全社員が所属する180の小集団活動(QCサークル)にトップが巡回、品質問題でトップ要因のヒューマンエラーに対し、確認会話の「3wayコミュニケーション」、相互確認の「ピアチェック」、自作業確認の「セルフチェック」のツール等を持つ「ヒューマンパフォーマンス(HuP)活動」を現場に取り入れている。

生産性改善への取組み(K-P I活動)

受注増に対応し、リードタイムを半減することを目標としたK-P I活動「京浜モノづくりイノベーション活動」(Keihin Process Innovation)に取組んでいる。活動ステップとしては、意識改革、5S活動の実施、見える化・作業の標準化(フルオーダーのものをプロセスや部品標準化でレディーメード化)、モノと情報の流れ改善(工程再設計による作業改善や生産管理改善)、自工程完結、生販の仕組改善としている。

事例紹介後、じっくり説明を受けながらの工場見学と質疑応答の後、最後に来年度テーマほかに関する審議をいただき委員会を終了した。